北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

財務データでみる北海道大学

財務レポート2018

特集　新名所「北大マルシェ Café & Labo」

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

～目 次～

総長あいさつ ―――― 1

北海道大学の基礎データ ―――― 2

北大の平成29事業年度決算概要 ―――― 3

北大の財務構造 ―――― 4

収入内訳の推移 ―――― 5

支出の内訳 ―――― 7

特集 新名所「北大マルシェ Café＆Labo」 ―――― 8

トピックス ―――― 10

財務諸表の説明 ―――― 12

財務指標 ―――― 15

北大フロンティア基金の取組み ―――― 17

総長あいさつ

日頃より、北海道大学に対するご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

本学は、今から142年前の1876年に、北海道の開拓の任に当たる人材を育成するため、明治政府が欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して設立した「札幌農学校」を起源とし、東北帝国大学農科大学を経て、1918年に北海道帝国大学となりました。

札幌農学校は、明治初期に実学の重視を掲げて設立された他の大学とは異なり、アメリカのリベラルアーツ教育が行われ、農学だけでなく数学、化学、生物学から語学、歴史、経済学まで幅広く教養を培うための基礎教育が実施されていました。そこでは、人間形成の基となる「全人教育」のみならず、未踏の学問領域を積極的に探求する「フロンティア精神」、国際性や多様性への柔軟な感受性を育成する「国際性の涵養」、そして、物事の本質を見極め、それを社会に活かす実のある研究を進める「実学の重視」を念頭に置いた教育が実践されました。

開校以来、本学はこれら４つの基本理念である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」及び「実学の重視」を受け継ぎ、今日に至る長い歴史を刻んでまいりました。この基本理念の一つである「国際性の涵養」に則り、2013年には、高い精神性と異文化理解、コミュニケーション能力を身につけたグローバル人材育成を支援するため、札幌農学校２期生で国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造の名を冠した「新渡戸カレッジ」を開校し、さらに、2015年からは大学院生向けのプログラムとして「新渡戸スクール」を開校し、世界の課題解決に貢献する北海道大学を目指して、精力的に活動してきております。

一方で、わが国の18歳以下人口の動態変化と基礎的財政収支の不均衡から、大学を取り巻く財政環境は益々厳しいものとなっております。2004年の法人化以降、国立大学に対する運営費交付金は、2017年度までに1,400億円以上が減額されており、本学においても、大学運営に必要な基幹的経費が毎年１～1.6%の減額となっております。このような状況の中、北海道大学がその果たすべき使命を全うすることを通じて世界的な課題を解決するために、大学病院収入や産学官連携等による自己収入の増収、教員・事務組織の効率化等の取組をより一層加速させるとともに、予算の効率的・効果的な執行に努め、財務基盤の強化を行ってまいります。

本学が持続的に発展し続けるためには、財務の健全性を確保すると同時にその透明性を高め、皆様への説明責任を果たすことが重要であることを踏まえ、例年のとおり「財務レポート 2018」を作成しました。「財務レポート」は、北海道大学が取り組んでいる事業を財務の側面から取りまとめたもので、本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務状態や経営状態を分かりやすく解説し、広くご理解いただくことを目的としております。皆様には、当レポートの内容をご覧いただき、本学が展開する様々な事業へのご理解と一層のご支援・ご協力を賜れば幸いです。

北海道大学 総長　**名和 豊春**

北海道大学の基礎データ

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

■ 学生数
17,685人（平成30年５月１日現在）
（学部学生 11,346人　博士前期 3,784人　博士後期 2,348人　専門職学位 207人）

■ 教職員数
4,568人（平成30年５月１日現在）
（役員 ８人　教員 2,102人　職員 2,458人）

■ 国際交流
外国人教職員数　**148人**（平成30年６月１日現在）

外国人留学生数　**96か国・地域　2,101人**（平成30年５月１日現在）

国際交流協定数　**67か国・地域　635本**（平成30年５月１日現在）

■ 病床数
939床（平成30年５月７日現在）

■ 蔵書数
3,830,206冊（平成30年３月31日現在）

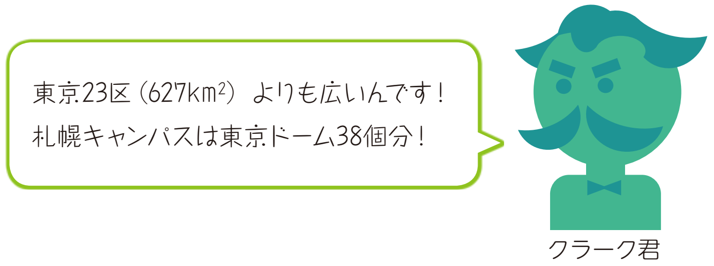
■ 学位授与数
218,277人（平成30年５月１日現在）
（学士 141,755人　修士 50,103人　博士 24,880人　専門職学位 1,539人）

■ 学部数
12学部（平成30年４月１日現在）

■ 研究科・学院数
3研究科　17学院　1教育部（平成30年４月１日現在）

■ 敷地面積※
660,235,026m²（平成30年５月１日現在）
（札幌キャンパス 1,776,249m²　札幌市内 1,112,319m²　函館市内 105,149m²　その他 657,241,309m²）

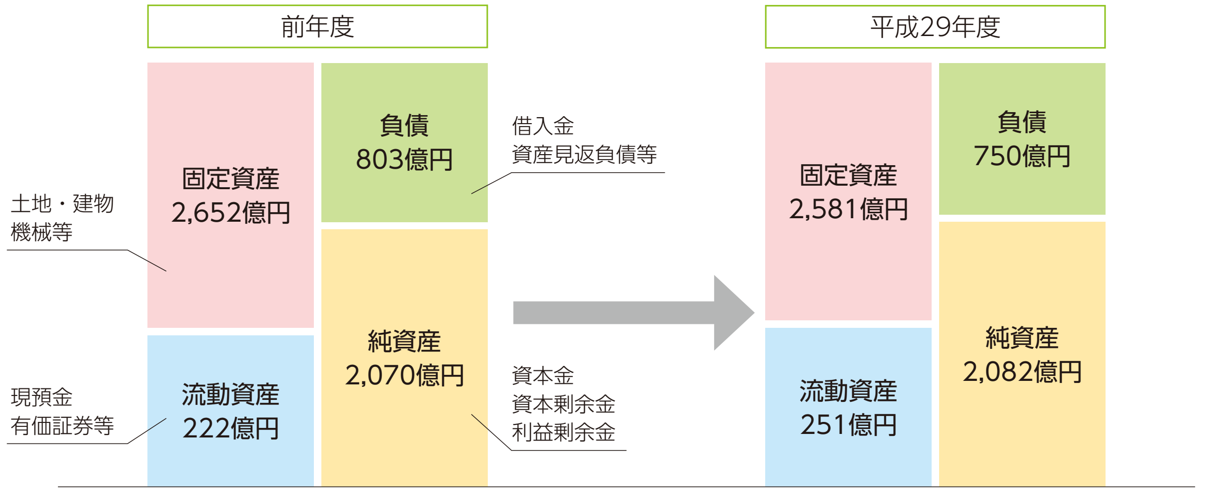
※各面積は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。



北大の平成29事業年度決算概要

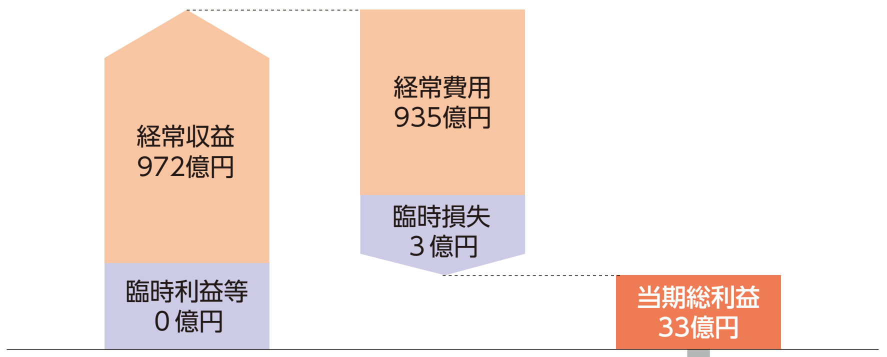
国立大学法人は、毎年度財務諸表を作成して、財務状況や運営状況を明らかにし、文部科学大臣に提出し承認を受けています。主な財務諸表の概要は以下のとおりです。

貸借対照表（B/S）　期末（３月31日）における大学の資産等の保有状況



平成29年度は、減価償却の進行及び除却による固定資産の減少により、資産が41億円減少しました。

損益計算書（P/L）　１事業年度（４月１日から翌３月31日）における大学の運営状況



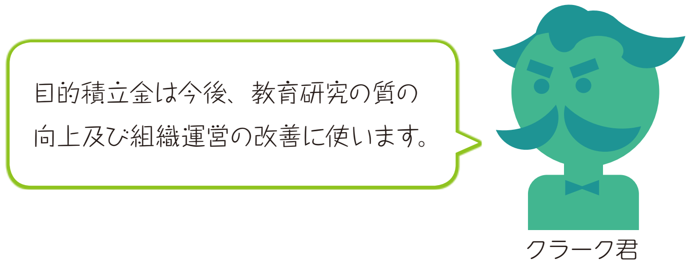
平成29年度の当期総利益は33億円となります。しかし…

利益の処分に関する書類（案）

当期総利益 33億円

積立金 23億円	国立大学法人会計固有の処理によって発生する現金の裏付けがない利益
目的積立金 10億円	文部科学大臣の承認の上、翌期の事業の財源にできる利益

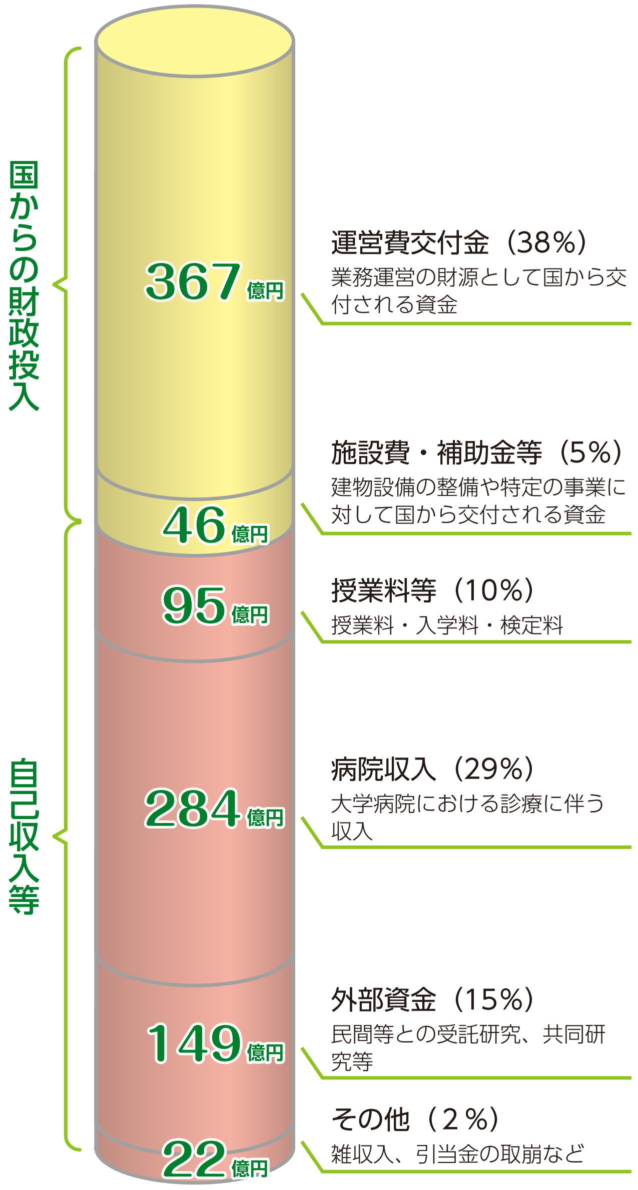
※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。
※詳細は12ページ以降をご覧ください。



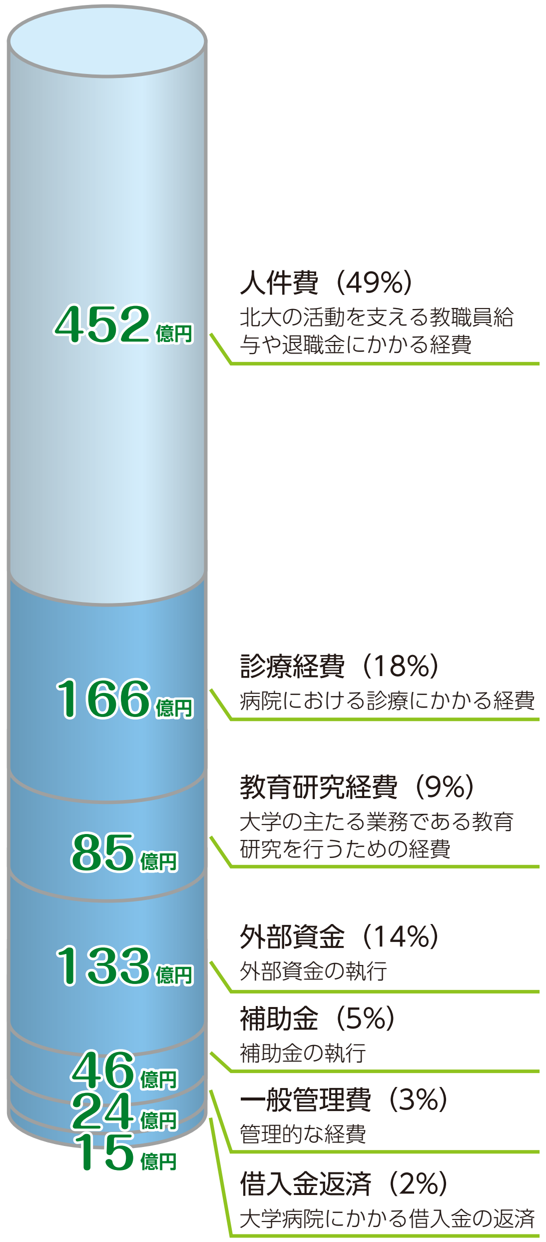
北大の財務構造

北大にいくらお金が入ってきて、それを何に使ったか、国と同様の基準で作成される決算報告書（現金主義）を元に表しています。国立大学法人特有の会計処理を行った結果である、損益計算書（発生主義）とは一致しません。
国からの財政投入と自己収入等、およそ半々で運営資金を賄っており、支出の約半分が人件費であることが特徴です。

収入：965 億円



支出：923 億円



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

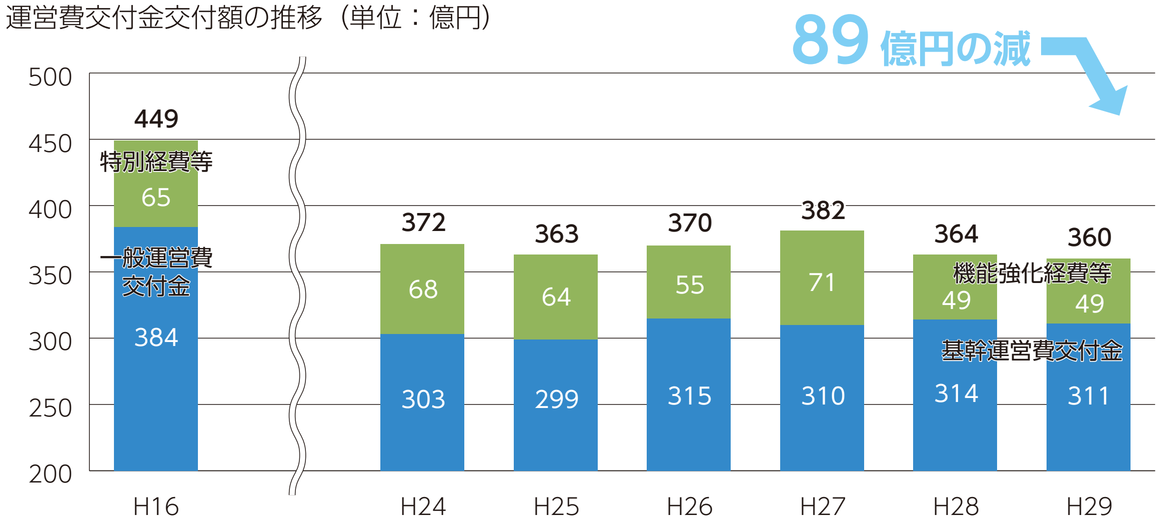
収入は国からの財政投入と自己収入が半々、
支出は約半分を人件費が占めています。

クラーク君

収入内訳の推移

ポイント1　運営費交付金は毎年削減

運営費交付金交付額の推移（単位：億円）

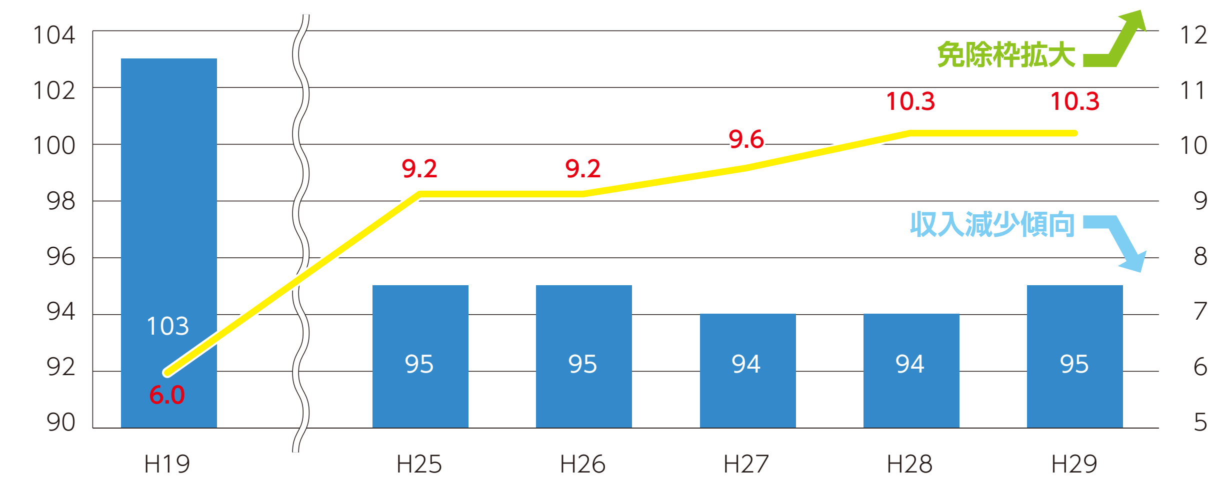


国から交付される運営費交付金は、毎年削減される仕組みになっており、法人化当初の平成16年度と比較すると89億円も削減されています。
このため、経営の効率化を図り、外部資金等の自己収入の増収策を講じる必要があります。

※各年度に交付された金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の運営費交付金収入（P4）や業務の進行度に応じ計上される損益計算書上の運営費交付金収益（P13）とは一致しません。
※H28から運営費交付金の各名称が変更されております。
※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

ポイント2　学生納付金収入は免除制度の拡充により減少傾向

学生納付金収入の推移（単位：億円）　　免除額の推移（単位：億円）

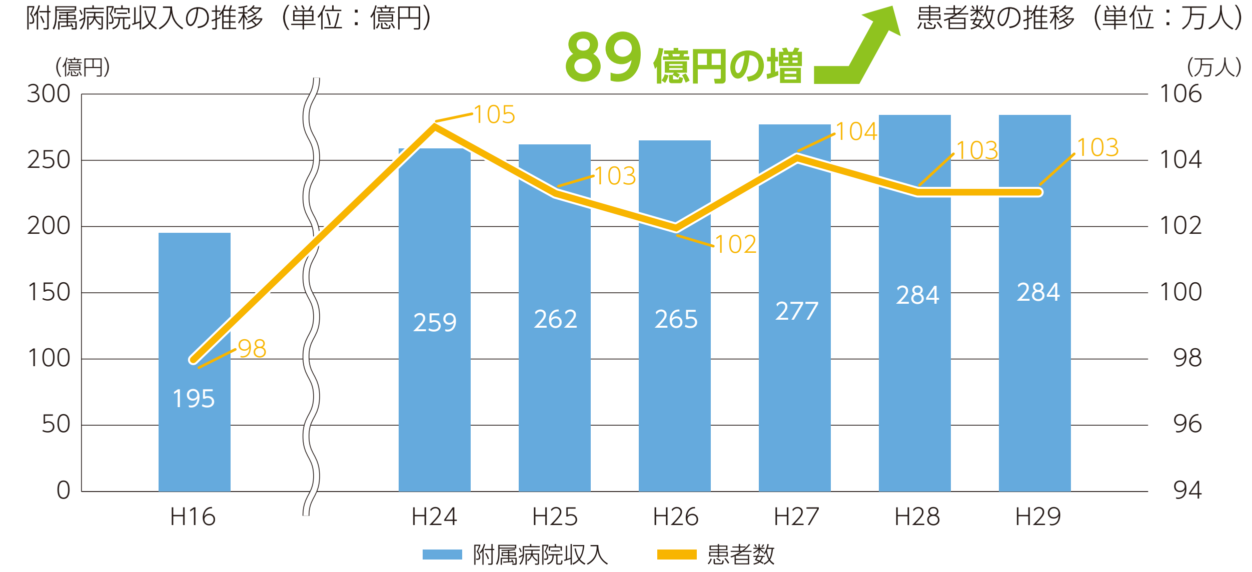


学業優秀でありながら、経済的に恵まれた環境にない学生に対しては、入学料及び授業料の全額または一部を免除する制度があります。
国からの支援もあり、平成29年度も引き続き、免除枠を拡大しました。

収入内訳の推移

ポイント3　大学病院の経営努力により病院収入は増加しています

附属病院収入の推移（単位：億円）　　患者数の推移（単位：万人）

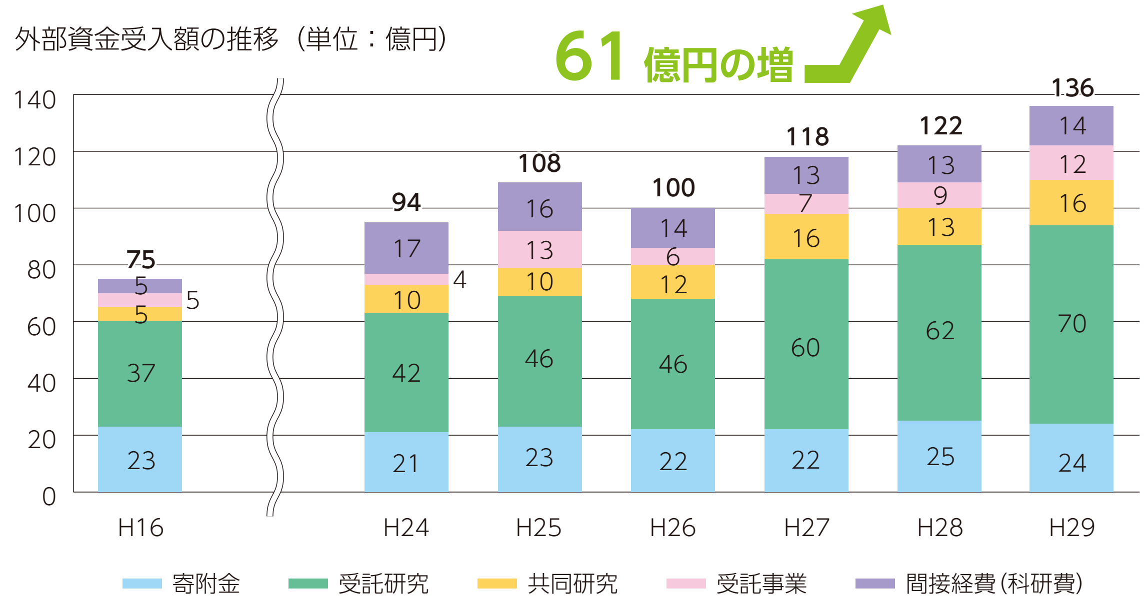


大学病院は、医療人材を養成し、高度医療の提供や、新治療法の研究開発を通じ、安心安全な国民生活を実現する使命を負っており、利益のみを追求しているわけではありません。

北大病院は、これらの使命を着実に果たしつつ、保有資産（診療機器等）の見直しによる経費の削減、手術件数の増や病床稼働率の向上による増収など、様々な経営努力を行っています。

ポイント4　外部資金の獲得拡大に取り組んでいます

外部資金受入額の推移（単位：億円）

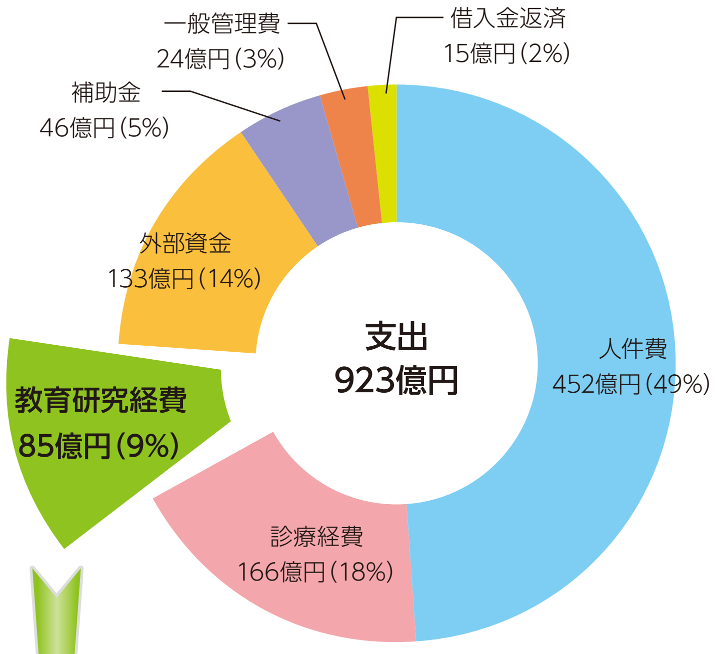


国立大学の事業拡大のためには、民間等の資金を受入れて研究等を行う外部資金の獲得が重要となります。北大においても、研究者が企業等にシーズの発表を行う説明会を開催する等、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

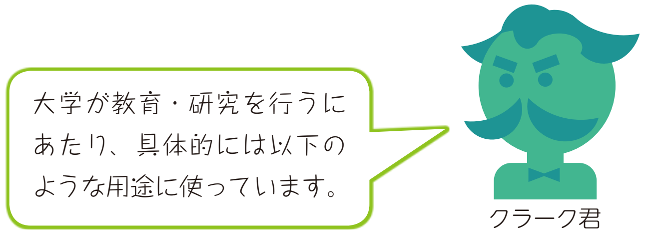
※各年度に受入した金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の外部資金収入（P４）とは一致しません。

支出の内訳

■ 支出の内訳（決算報告書より）



■ 教育研究経費の内訳



費目	説明	金額
設備・備品費	教育・研究を行うため設備や機器を購入しています。	9億円
業務委託費	大学運営にあたり業者に業務を委託した金額。清掃や警備の委託費があたります。	13億円
消耗品費	試薬等、すぐに費消してしまうものを購入した場合、この費目を計上します。	10億円
水道光熱費	水道や電気ガス代など	12億円
旅費交通費	教員の学会出席やフィールドワークのための交通費。	10億円
図書費	教育・研究に欠かせない資料である書籍など。	8億円
保守・修繕費	教育・研究機器や設備の保守や故障した場合の修理費。	9億円
その他	機器のリース料や授業料免除にかかる費用など。	10億円
合　計		85億円

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

特集　新名所「北大マルシェ Café&Labo」

2017年11月、百年記念会館に「北大マルシェ Café&Labo」がオープンしました。レストランと物販、乳製品の加工施設を併設した複合店舗です。

一番の目玉は、学内にある研究農場で飼育している牛から絞った「北大牛乳」。生乳を農場から運び、店内の加工施設で加熱殺菌をして飲用乳に。また、モッツアレラやフロマージュ・ブランといったチーズへの 加工も行っています。

北大生を中心としたアルバイトスタッフを雇用し、学生ならではのアイデアやフレッシュさを活かした店舗運営を行っています。

▲大きな窓から四季折々の風景を楽しめる点も利用客からの評価が高い。

▲北大牛乳とそれを使用したモッツアレラチーズ。
四季により色や風味が変化するのが特徴。

▲店内物販スペースでは道内各地から集めた無添加にこだわった様々な商品を手に取ることができる。テイクアウトのソフトクリームや北大牛乳を使用したプリンが人気。

▲ 正門から入ってすぐに位置する百年記念会館。店内は下川町の木材とレンガの温かみを感じる空間になっている。

大学は「可能性の塊」とも呼べる場所であり、社会を大きく変えうる力のある存在や技術、知が集積していると思っており、可能性を大きく開かせるためには大学が持つ歴史的価値や研究成果、学びの機能にもっと目を向けられる必要があると感じています。

北大マルシェ Café&Laboは北大を日本に、世界に発信するために立ち上げました。この場所をどんどん活用して、現役生・卒業生・教員・職員が一体となり、北大をさらに発信し盛り上げていきたいです。

北大マルシェ Café&Labo
店長　宮脇　崇文

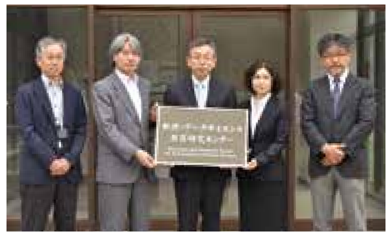
▼人口約200万人の大都市の中心部にこれだけ広い農場があること自体が極めて珍しい。
北大農場で飼育される牛は、豊かに育った牧草を食べて育つ。

北大マルシェ Café&Labo

OPEN 10:00 / CLOSE 18:00（季節により変更）　定休日　火曜日
〒060-0809　札幌市北区北９条西６丁目　北海道大学百年記念会館内
TEL・FAX 011-788-7452　http://www.marche-cafelabo.com/

教育・研究関係

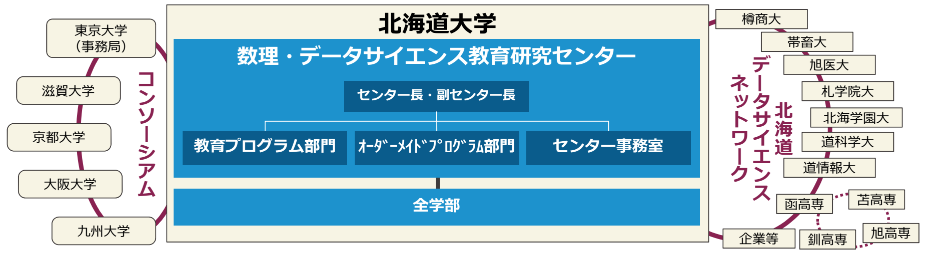
【『数理・データサイエンス教育研究センター』設置】(H29. 7)



「数理・データサイエンス教育研究センター」は、文系・理系を問わず、全学部生が数理・データサイエンスの基礎的素養を身に付け、数理的思考やデータ分析力を駆使して、社会の問題を解決する手法を見出すことができる人材の育成を目指し、学内共同教育施設として、平成29年7月に設置されました。

本学は、文部科学省より「数理及びデータサイエンスに係る教育強化の拠点校」として選定され、他の5拠点校と共にコンソーシアムを形成し、全国的なモデルとなる標準カリキュラムや教材の作成、他大学への普及方策の検討などを行っており、当センターが中心となって対応しています。特に、コンソーシアムの「教育用データベース分科会」で主査を務め、各大学で使用する教育用データの収集や利用環境の整備に向けて議論を牽引しています。

また、道内7大学により「北海道データサイエンスネットワーク」を構成し、他大学に展開可能な実践的な教育プログラムの実現に向けた検討を進めています。



【日本初のデスティネーション・マネージャー育成を目的とした履修証明プログラムの開講】(H29. 6)

大学院国際広報メディア・観光学院では、2017年6月より、日本で初めて「デスティネーション・マネージャー」育成のための履修証明プログラムを7名の履修者を迎えて開講しました。

デスティネーション・マネージャーとは、観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として観光庁が推進する日本版DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）において、中心となって活躍する人材のことです。

本プログラムは社会人を対象とした1年間のカリキュラムで、2018年3月には、6名の修了者に対して、北海道大学総長名による「履修証明書」(Certificate）と、学院長名による「デスティネーション・マネージャー」の称号が授与されました。本プログラムを履修することで、履修者本人のキャリアアップや、より高度な実践力を伴う観光地域づくりに繋がることが期待されます。

【onちゃん入学】(H29. 4)

©HTB

本学と北海道テレビ放送株式会社（以下，HTB）との「連携プログラム実施協定(平成29年3月締結)」の一環として、平成29年4月、HTBのマスコットキャラクター「onちゃん」が特別学部学生として入学しました。

本学および北海道のことを様々な角度から学び体験し、HTBによる放送やビデオオンデマンド等を通じて、「北大生onちゃん」が本学の魅力ある情報（学生生活、先端的研究、ユニークな教員／学生、魅力的な公開施設、市民参加イベントなど）を道内外に発信していきます。

<onちゃんの活動状況はこちらからどうぞ！>

① 北大ホームページ
② Instagram : onchan_campuslife
③ 北海道onデマンド（動画配信）：http://hod.htb.co.jp/pg/pg_oc

【産学連携により『北大ガゴメ』ブランドを商品化】(H29.12)

北大石鹸は、北大インフォメーションセンター エルムの森(北大正門すぐ)で販売中！

大学院水産科学研究院が開発した海藻栽培技術（名称：北大海洋栽培）を利用して生産したガゴメコンブを「北大ガゴメ」ブランドとして商品化を展開することとしました。その第1弾として北大石鹸、化粧品（美容液、パック）を北海道大学認定商品として販売することとなりました。

北大海洋栽培の特徴は、ガゴメコンブを通常の1/3の育成期間（約6ヶ月）で成長させることができ、さらに保湿や免疫力の向上に効果があるとされる「フコイダン」量を2倍以上に高めることができる点です。

この技術を利用した北大ガゴメを「海藻活用研究会」が中心となって生産・品質管理を行うにあたり北大発ベンチャーである北海道マリンイノベーション株式会社が、当研究会の実質的運営を担うこととなりました。当研究会は海藻の普及活動、及び海藻原料の安定供給を行うと共に、本学とも連携し、研究成果を活用した商品開発を推進していきます。

病院関係

【北海道地区で初めて『医療法上の臨床研究中核病院』として承認】(H30. 3)

北海道大学病院は平成30年3月23日付けで、厚生労働省より医療法第4条の3第1項に規定する臨床研究中核病院に承認されました。

臨床研究中核病院は医療法にて特定臨床研究を企画立案し実施する能力を有する等の施設要件が設けられており、日本発の革新的医薬品、医療機器等及び医療技術の開発等に必要となる質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験等の中心的な役割を果たすことが期待されています。

【『がんゲノム医療中核拠点病院』のひとつに指定】(H30. 2)

北海道大学病院は、平成30年2月16日付けで、厚生労働省が公募した「がんゲノム医療中核拠点病院」のひとつに指定されました。

（指定期間：平成30年4月1日～平成32年3月31日）

北海道の中核病院として、連携病院との協力のもと、オール北海道体制でがんゲノム医療を推進します。

受賞等

【文化功労者に喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授が決定】(H29.10)

平成29年度の文化功労者に喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授が選ばれました。

文化功労者は、我が国において文化の向上発達に関し特に功績が顕著な者が選ばれ、文化勲章に次ぐ栄誉とされております。

喜田ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授は、新型インフルエンザ出現のメカニズムを解明したほか、鳥インフルエンザ対策など感染症の克服に向けた国際共同研究に取り組んできました。現在も本学人獣共通感染症リサーチセンター統括として従事しています。

貸借対照表（B/S）

貸借対照表は、年度末（3月31日）における本学の財政状況（資産、負債及び純資産の状況）を表します。　(単位：百万円)

資産の部	平成28年度	平成29年度	増減
Ⅰ 固定資産	265,200	258,118	△7,082
1 有形固定資産	260,951	254,330	△6,621
土地	128,141	128,141	0
建物	84,460	82,234	△2,226
構築物	2,278	2,213	△65
工具器具備品	16,653	13,692	△2,961
図書	22,561	22,390	△171
美術品・収蔵品	327	318	△9
船舶	5,187	4,625	△562
その他	1,339	714	△625
2 無形固定資産	650	680	30
ソフトウェア	247	247	0
その他	401	432	31
3 投資その他の資産	3,598	3,106	△492
投資有価証券	3,141	2,532	△609
その他	456	572	116
Ⅱ 流動資産	22,227	25,151	2,924
現金及び預金	10,033	15,705	5,672
未収学生納付金収入	153	164	11
未収附属病院収入	5,045	6,043	998
未収入金	1,284	1,023	△261
有価証券	4,900	1,294	△3,606
たな卸資産	46	55	9
医薬品及び診療材料	548	556	8
その他	214	306	92
資産合計	287,427	283,269	△4,158

負債の部	平成28年度	平成29年度	増減
Ⅰ 固定負債	57,055	51,966	△5,089
資産見返負債	51,325	47,886	△3,439
債務負担金	2,843	1,750	△1,093
引当金	360	414	54
長期未払金	1,545	925	△620
資産除去債務	980	990	10
Ⅱ 流動負債	23,326	23,099	△227
運営費交付金債務	1,228	1,480	252
寄附金債務	7,794	8,071	277
前受受託研究費等	1,584	1,581	△3
1年以内返済債務負担金	1,387	1,092	△295
未払金	8,592	8,247	△345
その他	2,734	2,623	△111
負債合計	80,381	75,066	△5,315

純資産の部	平成28年度	平成29年度	増減
Ⅰ 資本金	154,570	154,570	0
Ⅱ 資本剰余金	21,806	19,573	△2,233
Ⅲ 利益剰余金	30,668	34,059	3,391
前中期目標期間繰越積立金	29,204	29,202	△2
目的積立金	0	255	255
積立金	0	1,209	1,209
当期未処分利益	1,464	3,392	1,928
純資産合計	207,045	208,203	1,158
負債・純資産合計	287,427	283,269	△4,158

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

●主な増減要因

【資産】

- ●有価証券：△3,606百万円
  ※譲渡性預金の減
- ●工具器具備品：△2,961百万円
  ※減価償却累計額の増
- ●現金及び預金：＋5,672百万円
  ※譲渡性預金の減に伴う預金の増

【負債】

- ●資産見返負債：△3,439百万円
  ※資産見返補助金等の減
- ●債務負担金：△1,093百万円
  ※返済額の減
- ●長期未払金：△620百万円
  ※PFI事業に係る未払金の減

会計メモ①　企業会計のＢＳとの違い

国立大学法人会計では、運営費交付金等を受領した際、直ちに収益とせず、教育研究の義務を負ったと考え、いったん運営費交付金債務（負債）とします。また、資産の購入にあてた運営費についても資産見返負債とします。これらは、損益均衡のための仕組みであり、教育研究の実施や減価償却の進行に応じて、収益化していきます。

会計メモ②　企業会計のＰＬとの違い

企業会計では、利益に直結する売上高（収益）を重視しているのに対し、国立大学法人会計では業務の遂行状況がわかる費用を重視しています。また説明責任を果たすという観点及び法人の特色ある発展に向けての検討に寄与するという観点から、教育研究などの目的別に分類表示することが求められています。

損益計算書（P/L）

損益計算書は、一会計期間の運営状況を表したものです。　(単位：百万円)

費用	平成28年度	平成29年度	増減
Ⅰ 経常費用	94,528	93,563	△965
業務費	91,252	90,552	△700
教育経費	5,409	5,566	157
研究経費	9,655	9,085	△570
診療経費	17,216	17,503	287
教育研究支援経費	1,655	1,579	△76
受託研究費	6,025	6,909	884
共同研究費	1,363	1,655	292
受託事業費	1,021	1,216	195
人件費	48,903	47,036	△1,867
一般管理費	3,010	2,850	△160
財務費用	264	159	△105
雑損	0	0	0
Ⅱ 臨時損失	98	350	252
費用合計	94,626	93,913	△713
当期総利益	1,464	3,392	1,928
計	96,090	97,305	1,215

収益	平成28年度	平成29年度	増減
Ⅰ 経常収益	95,358	97,271	1,913
運営費交付金収益	35,020	35,116	96
学生納付金収益	10,033	10,098	65
附属病院収益	28,246	29,482	1,236
受託研究収益	6,163	7,094	931
共同研究収益	1,377	1,650	273
受託事業等収益	1,040	1,228	188
寄附金収益	2,162	1,983	△179
施設費収益	98	259	161
補助金収益	2,691	2,042	△649
資産見返負債戻入	5,442	5,268	△174
財務収益	10	10	0
雑益	3,069	3,036	△33
Ⅱ 臨時利益	75	32	△43
収益合計	95,433	97,303	1,870
目的積立金等取崩額	656	2	△654
計	96,090	97,305	1,215

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

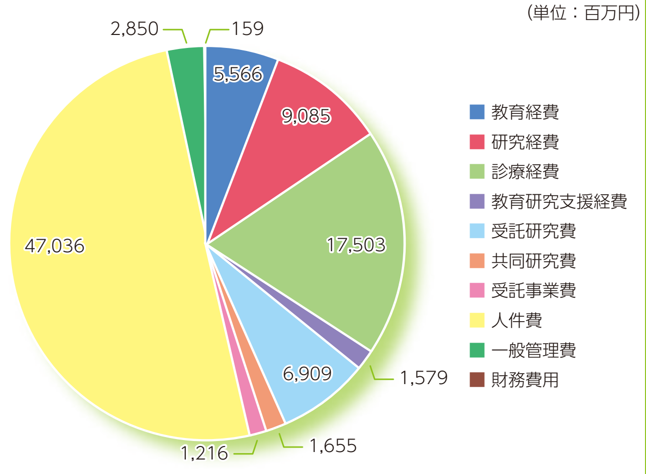
● 主な増減要因

【経常費用】

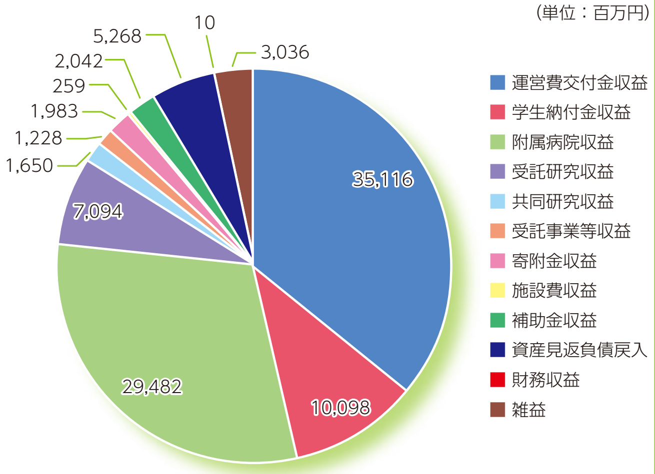
- ●人件費：△1,867百万円
  ※人員の減、退職者の減
- ●研究経費：△570百万円
  ※減価償却費の減
- ●受託研究費：＋884百万円
  ※受入額の増加に伴う執行額の増

【経常収益】

- ●補助金収益：△649百万円
  ※交付額の減に伴う収益化額の減
- ●附属病院収益：＋1,236百万円
  ※入院診療収益、外来診療収益の増
- ●受託研究収益：＋931百万円
  ※受入額の増加に伴う収益化額の増



経常費用構成割合



経常収益構成割合

会計メモ③　資産見返負債戻入

メモ①で説明したとおり、国立大学法人会計では、資産の購入に充てた運営費等は、資産見返運営費等とし、購入時点では、その分の収益を認識しません。その後、減価償却費と同額の資産見返負債戻入を計上することで損益を均衡させます。民間企業と異なり、購入した資産は教育研究に使用され、利益を生み出すものではないため、このような処理を行います。

財務諸表の説明

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間のお金の流れを表します。
平成29年度においては、業務活動で獲得した資金を設備投資や借入金の返済に充てたことが分かります。

Ⅰ 業務活動によるキャッシュ・フロー
教育・研究及び診療など、大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を表します。
【収入＞支出（＋表示)、収入＜支出（－表示)】

Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー
将来の運営基盤を確立するための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。
【設備投資の抑制（＋表示)、設備投資の拡大（－表示)】

Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー
資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を表します。
【借入の拡大（＋表示)、返済（－表示)】

（単位：百万円）

	平成28年度	平成29年度	差額
Ⅰ 業務活動によるキャッシュ・フロー	7,514	7,011	△503
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	353	△2,983	△3,336
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,410	△2,356	1,054
Ⅳ 資金に係る換算差額	△0	0	0
Ⅴ 資金増加額（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）	4,457	1,672	△2,785
Ⅵ 資金期首残高	5,576	10,033	4,457
Ⅶ 資金期末残高（Ⅴ＋Ⅵ）	10,033	11,705	1,672

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

利益の処分に関する書類（案）

損益計算の結果、当期に発生した利益の処分について明らかにしたものです。

（単位：百万円）

	平成28年度	平成29年度	差額
Ⅰ 当期未処分利益	1,464	3,392	1,928
当期総利益	1,464	3,392	1,928
Ⅱ 利益処分額	1,464	3,392	1,928
目的積立金（教育研究向上及び組織運営改善積立金）	255	1,034	779
積立金	1,209	2,358	1,149

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

国立大学法人等業務実施コスト計算書

大学運営にかかる国民負担額を明らかにしたものです。
損益計算書の費用から自己収入を控除し、損益計算書に計上されないコストや機会費用を加味して算出します。

（単位：百万円）

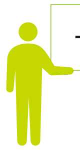
	平成28年度	平成29年度	差額
Ⅰ 業務費用	41,888	38,643	△3,245
（1）損益計算書上の費用	94,626	93,913	△713
（2）（控除）自己収入等	△52,737	△55,270	△2,533
Ⅱ 損益外減価償却相当額	4,944	4,948	4
Ⅲ 損益外減損損失相当額	0	0	0
Ⅳ 損益外利息費用相当額	2	2	0
Ⅴ 損益外除売却差額相当額	△0	8	8
Ⅵ 引当外賞与増加見積額	△45	△34	11
Ⅶ 引当外退職給付増加見積額	△212	△93	119
Ⅷ 機会費用	131	94	△37
・国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	19	18	△1
・政府出資の機会費用	112	76	△36
Ⅸ（控除）国庫納付額	-	-	-
Ⅹ 国立大学法人等業務実施コスト	46,710	43,569	△3,141

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

北大の1年間の運営にかかる国民一人あたりのコスト

業務実施コスト 435億円

人口 1億2,660万人



一人当たり 343円

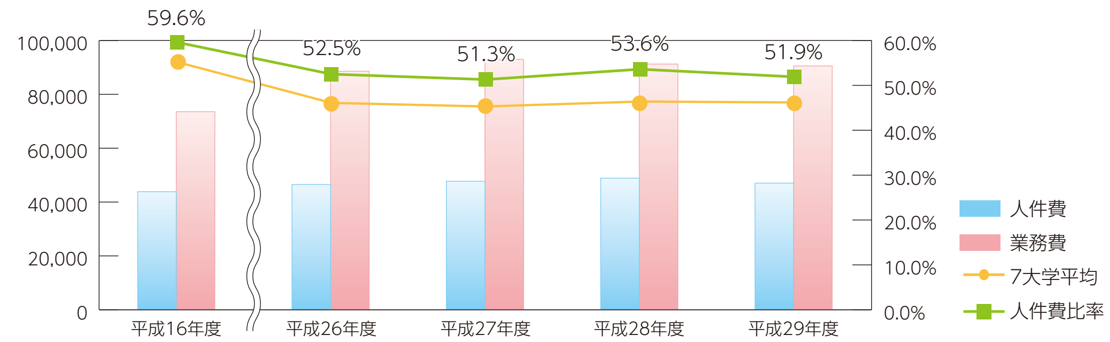
（算出方法）
業務実施コスト435億円÷人口1億2,660万人
人口：平成30年2月1日現在（総務省統計局データより）

財務指標

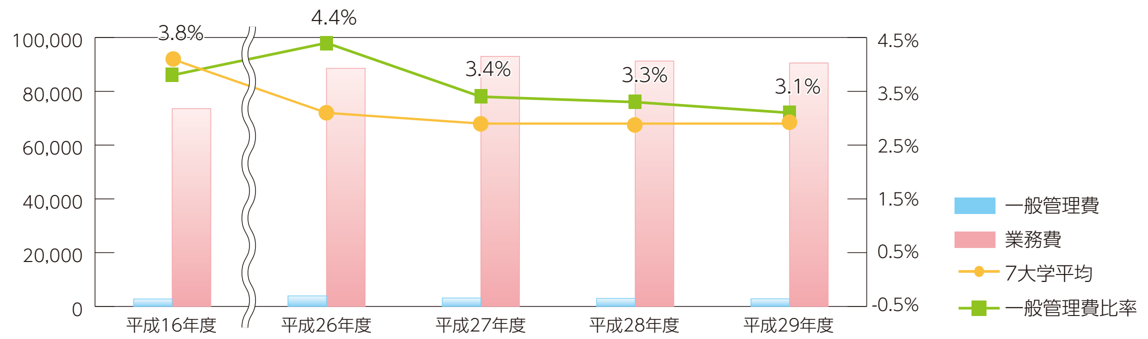
財務指標を算出し、他大学等と比較することで、本学の置かれた位置を把握することができます。
本学では、主な財務指標について、本学及び同規模大学（東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大）の平均と比較して、経営判断に役立てています。

（単位：百万円）

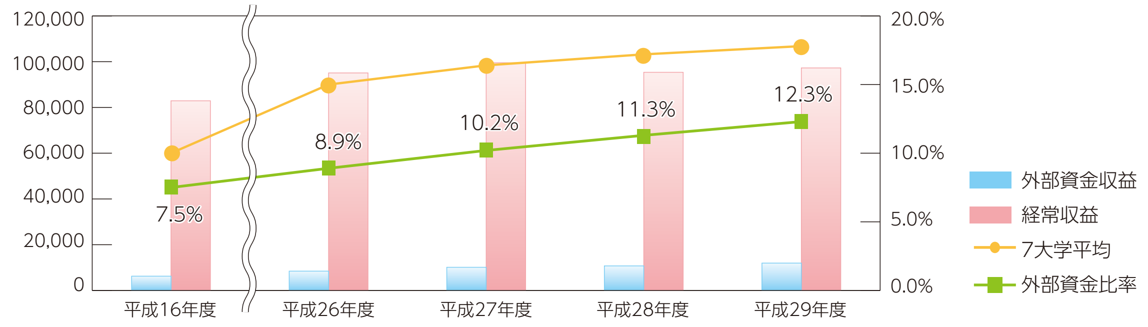
財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
① 人件費比率			(45.3%) 51.3%	(46.4%) 53.6%	(46.2%) 51.9%
業務費に占める人件費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が良いことを示します。	人件費÷業務費	人件費	47,723	48,903	47,036
		業務費	93,006	91,252	90,552



財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
② 一般管理費比率			(2.9%) 3.4%	(2.9%) 3.3%	(2.9%) 3.1%
業務費に占める一般管理費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が良いことを示します。	一般管理費÷業務費	一般管理費	3,134	3,010	2,850
		業務費	93,006	91,252	90,552



財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
③ 外部資金比率			(16.4%) 10.2%	(17.2%) 11.3%	(17.8%) 12.3%
経常収益に占める外部資金の割合を示す指標であり、比率が高いほど外部資金の受入が拡大していることを示します。	外部資金収益÷経常収益 ※28年度より、受託研究収益と共同研究収益が区分されております。	外部資金収益	10,127	10,744	11,956
		受託研究収益	7,269	6,163	7,094
		共同研究収益	－	1,377	1,650
		受託事業等収益	752	1,040	1,228
		寄附金収益	2,104	2,162	1,983
		経常収益	99,533	95,358	97,271

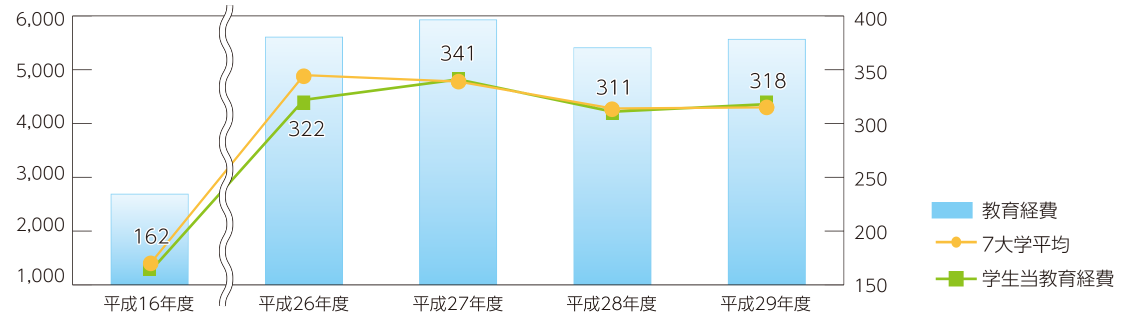


・上段（　）書きは各年度の旧７帝大学平均

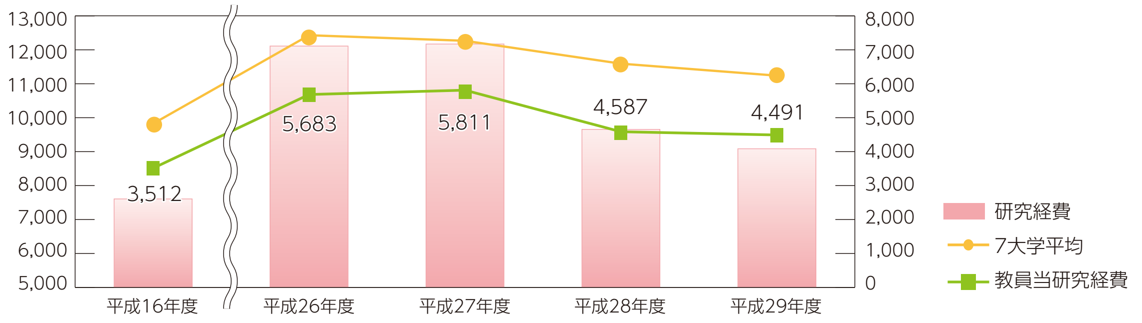
財務指標

（単位：百万円）

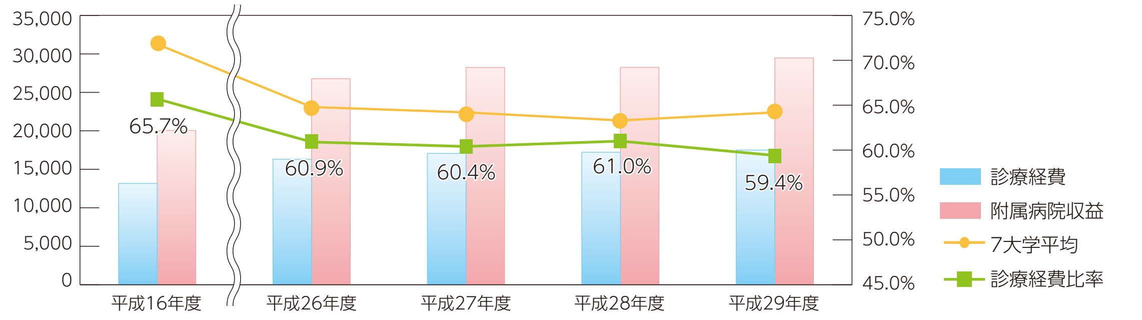
財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
④ 学生当教育経費（千円）			(339千円) 341千円	(314千円) 311千円	(315千円) 318千円
学生一人当たりの教育経費を示す指標であり、この数値が高いほど学生一人当たりにかけられた教育経費が大きいことを示します。	教育経費÷学生数	教育経費	5,928	5,409	5,566
		学生数（人）	17,367	17,414	17,522



財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
⑤ 教員当研究経費（千円）			(7,266千円) 5,811千円	(6,592千円) 4,587千円	(6,239千円) 4,491千円
教員一人当たりの研究経費を示す指標であり、この数値が高いほど教員一人当たりにかけられた研究経費が大きいことを示します。	研究経費÷常勤教員数	研究経費	12,170	9,655	9,085
		教員数（人）	2,094	2,105	2,023



財務指標 内容	計算式	項目	27年度	28年度	29年度
⑥ 診療経費比率			(64.2%) 60.4%	(63.3%) 61.0%	(64.2%) 59.4%
人件費を除く診療活動に要する経費が病院収益に占める割合を示す指標であり、この比率が低いほど大学病院の収益力が高いことを示します。	診療経費÷附属病院収益	診療経費	17,066	17,216	17,503
		附属病院収益	28,239	28,246	29,482



・上段（　）書きは各年度の旧７帝大学平均

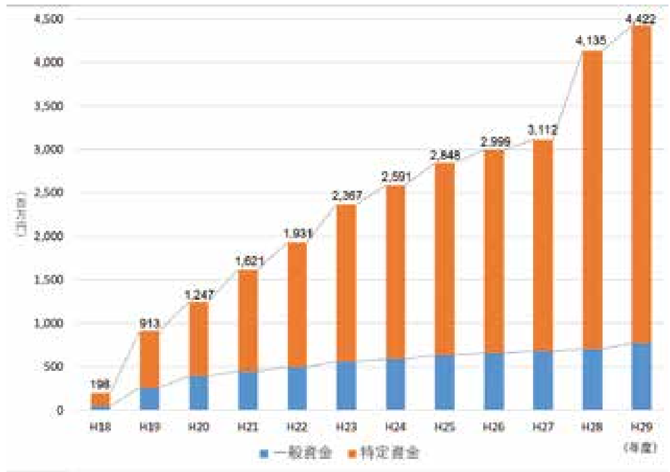
北大の教育研究の充実のためには皆様の支援が必要です。

北大フロンティア基金の取組み

フロンティア基金とは？

運営費交付金が削減される等、国立大学を取り巻く状況が厳しさを増す中、北大が自主・自立的な大学運営を行い、社会へより貢献していくため、皆様のご支援を必要としております。
そのため、北大はフロンティア基金を創設し、平成18年10月から寄附の募集を開始しました。

基金の状況



平成30年3月現在で累計約44億円

※平成28年度の特定資金には、
クラーク記念財団からの承継分677百万円を含む。

主な活動

● **学生支援**
新渡戸カレッジ海外留学支援、奨学金、課外活動支援、就職活動支援 等

● **学部等支援**
講堂整備、教育関連設備の整備 等

● **留学生・国際交流支援**
生活困窮学生に対する経済的支援、外国人受入環境整備事業 等

新渡戸カレッジ短期留学

寄附の種類

北大フロンティア基金は、使途を特定しない「一般資金」と、寄附者の意思により具体的な使途を特定した「特定資金」から構成されています。

寄附方法

PC から　　スマホから　　振込用紙から

北大フロンティア基金　検索

【税制上の優遇措置等について】

北海道大学は、所得税法上の寄附金控除の対象となる法人及び法人税法上の**寄附金額の全額損金算入が認められる法人**として財務大臣の指定を受けています。
また、一部の地方自治体から寄附金税額控除対象法人として指定されています。一般の寄附金よりも寄附者の税制上の優遇措置が拡大されております。
くわしくは下記にお問い合わせください。

継続寄附のご案内　クレジットカード決済、または口座振替により、継続寄附（毎月・年２回・年１回のいずれかの自動引き落とし）をご利用いただけます。お申込み後の内容変更や解約もインターネットで随時行えます。

お問い合わせ先

北大フロンティア基金事務室
〒060-0809　札幌市北区北９条西６丁目 北海道大学 百年記念会館内
TEL：011-706-2017　　kikin@jimu.hokudai.ac.jp
FAX：011-706-2092　　https://www.hokudai.ac.jp/fund/

財務レポート2018

発　　行：北海道大学財務部主計課財務管理室
所 在 地 ：〒060-0808 札幌市北区北８西５
電　　話：011-706-3991
メ ー ル ：zaikan@finance.hokudai.ac.jp
発行年月：平成30年10月

過去の財務レポートは Web でご覧いただけます。
URL: https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/zaimu/

以下は広告欄です。内容については広告主にお問い合わせください。